



# Shanti 通信 (No.35)



By AYAKO SHIRAI

2020年5月17日(日)、サットサンガがオンラインで開催されました。

いつもは丸岡教室に集まって行われるサットサンガですが、新型コロナウイルス拡大予防の外出自粛期間中とあって、それぞれの自宅から音声だけで繋がるサットサンガでした。お互いの顔が見えない中でしたが、千晴さんのキールタン「サルヴァ・ダルマ・プラーラタナー」が聴こえてくると、心の中に静けさがやってきました。

## はじめに

マキ先生が「ヨーガといのちの科学」の「サットサンガ」の節(P138-)の一部を読みあげてくださいました。

(下記に、そのうちの一部を引用します)

【サットサンガという集まりは、あなたの中にすでにある種に、芽を出させる集まりなのです。サットサンガでお話を聞くと、多くの場合、あなたが何者であるかをわからせてくれます。つまり、目が醒めるわけです。サットサンガという言葉はサンスクリットからきました。二つの語源から合成されています。サットは『良い』または『真実』、サンガは『人々が集まる』『同じような念願をもった者が集まる』という意味です。つまり、聖なる人達、または良い心をもった人達と一緒に集まるという意味です。】

チダナンダ師のお言葉を改めて聞くと、背中を押していただけるような、励ましてもらえらるような、同じ空間にいないとも集えるのだという気持ちが高まってきました。

## カルマの法則(マキ先生より)

ヨーガスワルパナンダ師からマキ先生の元に“*Its not Corona, its Karma*”と書かれたイラストが送られてきました。

人々がマスクをして檻に入り、檻の外では動物達が囲み、檻を眺めています。

カルマの法則とは宇宙の法則であり、私たちの行為が原因となり、

それに対して反応が起こる、原因と結果の法則です。

前世からの行為の結果、私たちの今生があります。

人類は今、自分たちが今までに成してきた行為の結果を体験させられています。人間が自然を無視して、人間中心の社会を築いてきた結果、新型コロナウイルスが現れました。

このように、私たちはかつてない経験、体験をすることになりました。

このような時だからこそ、次の話をお伝えしたいです。



Its not Corona, its Karma

## スワミジから聞いたお話(マキ先生より)

あるところに男が住んでいました。神様に会いたいと願っている熱心な真面目な男でした。

「神様、ぜひ私の家にいらしてください。」といつも祈り続けていました。

ある日、夢の中に神様が現れ「明日、お前の家を訪ねますよ。」と仰いました。

男はとても喜び、家中を掃除し、おもてなしの料理を作り、庭に花を植え手入れをして待ちました。

すると、そこに乞食がやってきて「何か食べる物を恵んで欲しい。」と言いました。しかし、男は「お前にあげるものはない。」と断りました。

今度は汚い猿が家に入って来ました。家が汚されないように男は必死になって追い払いました。

今度は痩せた牛が庭に入ってきて、手入れをした花壇を荒らしました。男はやっとの思いで牛を追い出しました。

そうして男は、神様を待ち続けました。しかし、夜になっても神様は家に来られませんでした。

その晩、男は、がっかりして眠りにつきました。神様がまた夢に現れました。男は「なぜ家にいらしてくださらなかったのですか？」と泣きながら尋ねました。

神様は「私は三度も行きましたよ。ご馳走を用意したというから頂きに、家を綺麗にしたというから見に、お花を見ようと庭にも行きました。しかしあなたは、私に気付かずに追い払ったではないですか。」と答えられました。この話から、神様はあらゆる形、姿になって私たちの前に現れます。必ずしも、良い存在として、美しい形、姿で現れるわけではありません。時には、苦しみ、痛み、ストレスを与える存在として現れることもあります。

### 神様の手(志乃子先生より)

あるところに敬虔な神父様がありました。いつも祈りを捧げ、皆が幸せでありますよう、平和でありますように、と祈っていました。

ある日、大雨が降りましたので、神父様は「雨が止みますように。」と神様に祈りました。ところが雨は降り止みません。一階にいられなくなり屋上に上りました。それでも雨は降り止みません。水位は膝の高さになりました。その時、手漕ぎボートが助けに来ました。「ここは浸かってしまうから早く逃げなさい。」「いいえ。神様は、雨が止みますようにという願いを聞いてくれますから。」と神父様は答え、手漕ぎボートは行ってしまいました。

一生懸命祈りましたが、まだまだ雨は降り止みません。とうとう、水は胸の高さまで来ました。エンジン付きのボートが救援に来ました。「ここは水没してしまうから逃げなさい。」「いいえ。神様は、雨が止みますようにという願いを聞いてくれますから。」と神父様は答え、エンジン付きのボートも行ってしまいました。

一生懸命祈りましたが、それでも雨は止みません。とうとう首まで水に浸かりました。そこにヘリコプターが助けに来ました。「ロープにつかまりなさい。」「いいえ。神様は、雨が止みますようにという願いを聞いてくれますから」と神父様は答え、ヘリコプターも行ってしまいました。

さて、この神父様はどうなったのでしょうか？ …神父様は、流されて亡くなり、神様の元にたどり着いたのです。そこで神様に「なぜ祈りを聞き届けてくれなかったのですか？」と尋ねました。

神様は「三度、救いの手を送ったではないか。」と答えられました。

雨が止むことしか願わなかった神父様には、神様の手が見えませんでした。

この話から、八方塞がりの時は、神様の手は別のところにあるのではないか、神様の手はどこかにある、自分の思い込みとは違うところかもしれない、と一息ついてみましょう。不思議と解決策はあります。

江藤真知子ちゃんが、神様はあらゆるものの中に現れる、というようなマキ先生、志乃子先生のお話から、**惟神(かんながら)の道**の考え方を教えてくれました。

### 各(おの)が各(おの)がの上にも神のおわします事忘るべからず

すべてのもの、大自然、目に見えないものにも神様→光がある

「互いの光を確認しあって、感謝しあって全体の調和をとっていこう」という感じだそうです。

古事記の考え方に似ていると紹介してくれましたが、ヨガにも通じる言葉で、とても心に響きました。

古事記からの学びについては、**Shanti 通信(No.34)**に「**ヨガと古事記の学びから実践へ**」として、松下摂子ちゃんがまとめてくれています。ご参照ください。

## 魂の成長度の話(マキ先生より)

欲しい物を得たり、美味しい物を食べたり、好きなことができれば、本当の意味で幸せと思えますか？

**魂年齢(魂の成長度によって、それを年齢と呼ぶならば)**は人それぞれなので、まだ若い魂であれば、それで幸せと満足するかもしれません。しかし、ヨガに出会い、ヨガを深く学ぶうちに、私たちにとって幸せとは、物質的な幸せだけではないと気づくのではないのでしょうか。すると、物の見方が変わります。

カティキアン師は「大変幸運なことに、私たちは人間として生まれて来たのだから、生まれ変わる度に必ず、少しずつは進化していく。」と仰っていました。

物事をどういう風に捉えるかで、幸せのカテゴリーは違ってきます。私たちがこうしてサットサンガに集まるということは、それに気がつき、魂を成長させたいと願うからではないでしょうか。

本当の意味での幸せについて考えてみましょう。



## 真の私と向き合うチャンス(丸岡ヒロ先生より)

幸せ、平和、全ては、内側にあります。今までは、外を向いていたので内側を見ていなかったかもしれません。今、それを見る良い機会ができました。コロナのおかげで、皆、自分自身と一緒にいる時間が増えました。チャンスととらえて真の自分に向き合ってください。

「極楽とんぼ」という言葉があります。極楽の上の方を呑気に飛んでいるとんぼ、何の苦勞も知らず、自分が幸せかどうかすら知らずに、1～2ヶ月の寿命を終えます。皆さんは、そのように生きたいですか？

人は、誕生するまではお腹の中で守られ極楽とんぼで過ごし、生まれてはじめて痛みや苦勞を感じます。人は痛みや苦勞により育ち、成長します。真の私を知るために、私たちには身体という道具が与えられています。痛みや苦勞は大きければ大きいほど飛躍のチャンスも大きいということです。あなたが大きく成長するのを心から願っている神様が、絶好のチャンスを与えてくれるのです。あなたが真の私を実現できるようにとの、神様の切なる祈りです。

素晴らしさは、あなたの中にあります。それに気づくチャンスとわかれば、苦勞や痛みも苦しくはないのです。

## おわりに

キールタン、マントラ、そして最後にハーモニウム瞑想もあり、ここ(自宅)に座っているのは1人ですが、同時にたくさんの仲間と繋がっているのだと、心がすっきりと洗われたように感じ、穏やかな時間を過ごすことができました。

今までの日常は、目に見えるもので物事を判断することが大きかったと気がつきました。こうして、音声だけのサットサンガとなったので、初めは耳から聞こえる言葉や音に集中して、聞き逃さないようにしようと思っていました。実際には、音として聞こえてくるだけではない、空間も超えたヴァイブレーションのようなもの、優しさ、温かさを感じることができました。いつものように、皆さんと集まっていたら、気付かなかったことかもしれません。

準備をしてくださった、マキ・ユングハイム先生、キールタン部の皆様、まあちゃん、そして皆様、ありがとうございました。今回は、コロナのおかげで繋がった方々とのご縁もたくさんありました。ヨガの教えがあるからこそ、どんな状況でも安心して過ごしていけることを再確認しました。

今回のサットサンガの報告は2部に分かれてシャンティ通信 No.34とNo.35になりました。

松下摂子ちゃんと私が、違う視点から書いたそれぞれのシャンティ通信を、楽しんで読んでいただければと思います。最後までお読みいただきありがとうございました。



♥ 白井 綾子